

## 今日の説教のポイント<エフェソの信徒への手紙2章7~10節>

先週：死(1-3節)から命(4-6節)へ。私でなく神様を見る生き方へ。

### ①流れに任せて生きる者から、神様の目的を考えながら生きる者へ

聖書の神様を信じるようになる前とその後で違って来ることの一つに、「自分の人生は神様の御計画の中に置かれているのだ」、と思いがながら生きられるようになることがあります。7節はよくそのことを表しています、「こうして、神は、キリスト・イエスにおいてわたしたちにお示しになった慈しみにより、その限りなく豊かな恵みを、来るべき世に現そうとされたのです」。「来るべき世に現そうとされた」では、私たちがそこで用いられることが考えられている点が大事です(③で)。つまり、流れに任せて生きる生き方ではなく、神様の目的を考えながら生きる生き方ができる恵みが、私たちに差し出されているのです!

### ②自分の力によるのではなく神の賜物による救いの恵み

8節で言われている通り、宗教改革者たちも、神様の救いは私たちの善き行いによって与えられるのではなく、ただ神様の恵みによって (sola gratia)、また、そのことをただ信じることによって (sola fide) 与えられることを強調しました(8節)。9節では、「それは、だれも誇ることがないためなのです」、とされています。自分の善き行いによって救われるなら、それはきっと自分を誇ることにつながるでしょう。しかし、神様の恵みによって救われるなら、もはや自分を誇る必要はないのです!パウロも、「誇る者は主を誇れ」(Iコリント1:31、IIコリント10:17)と語っています。

### ③私たちが善い業に励んで生きられるようになる理由

10節では再び「善い業を行って歩む」ことが語られています。しかし、それはもう、そうすることによって救われるためではありません。救われたことに感謝して、その応答として神様から託された善い業に取り組んで行くのです。その「善い業」なる務めとは何でしょうか?この神様の救いの恵みを伝える務めです(IIコリント5:16以下!)。神様から与えられたこの使命を覚え、そのために建てられた主の体なる教会の肢体となって生きていく時に、私たちは確かに、「自分の人生は神様の御計画の中に置かれているのだ」と思えるようになるのです!